

製品名: MC1-R ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13696**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	35kDa

抗原情報

遺伝子名	MC1R
別名	MC1R; MSHR; Melanocyte-stimulating hormone receptor; MSH-R; Melanocortin receptor 1; MC1-R
遺伝子 ID	4157.0
SwissProt ID	Q01726
免疫原	抗血清はヒト MSHR 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 268-317

背景

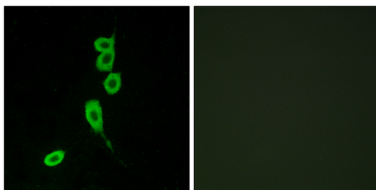
このイントロンのない遺伝子は、メラノサイト刺激ホルモン（MSH）の受容体タンパク質をコードしています。コードされているタ

ンパク質は、7回膜貫通型の G タンパク質共役受容体であり、メラニン生成を制御します。メラニンには、赤色フェオメラニンと黒色ユーメラニンの2種類があります。機能喪失につながる遺伝子変異は、フェオメラニン産生の増加と関連しており、肌や髪の色が薄くなります。ユーメラニンは光防御作用がありますが、フェオメラニンは紫外線照射時にフリーラジカルを生成し、紫外線による皮膚損傷の一因となる可能性があります。MSHがその受容体に結合すると、受容体が活性化され、ユーメラニンの合成が促進されます。この受容体は、日光感受性の主要な決定因子であり、黒色腫および非黒色腫皮膚がんの遺伝的危険因子です。皮膚や髪の色と相関する30を超える変異対立遺伝子が特定されており、この遺伝子が、ドメインにおける重要な構成要素であるという証拠を提供しています。酸性度の非常に高いC末端領域は、カルシウムなどの陽イオンと結合する可能性があります。機能:MSH (アルファ、ベータ、ガンマ) および ACTH の受容体。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼを活性化する G タンパク質によって媒介されます。機能:チューブリンは微小管の主成分です。チューブリンは2モルの GTP と結合し、1つはベータ鎖の交換可能部位に、もう1つはアルファ鎖の非交換可能部位にあります。多型:MC1R の遺伝子変異は、皮膚/髪/眼の色素沈着タイプ2 (SHEP2) [MIM:266300] の変異と関連しています。髪、眼、皮膚の色素は、ヒトの表現型の多様性の最も顕著な例の1つであり、皮膚の場合、赤道から離れるほど色素が薄くなる傾向があります。対照的に、人間の目と髪の色における多様性の大部分はヨーロッパ系の人々に見られ、他のほとんどの人類集団は茶色の目と黒髪に固定されています。多型: MC1R 遺伝子の変異は、皮膚の色素沈着の程度 (タイプ I~IV) と関連しています。タイプ I の皮膚は最も色素が薄く、タイプ IV の皮膚は最も色素が濃いです。部分的な機能喪失型変異は、色白、日焼けの悪さ、皮膚がんのリスク増加と関連しています。類似性: G タンパク質共役受容体1ファミリーに属します。類似性: チューブリンファミリーに属します。サブユニット: α 鎖と β 鎖の二量体。組織特異性:メラノサイトと副腎皮質組織。

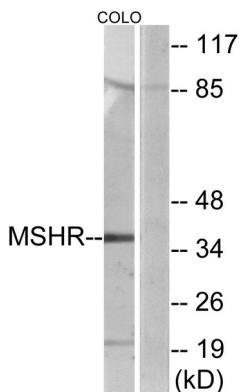
研究分野

神経科学; 神経伝達; 受容体/チャネル; GPCR; その他の GPCR; 代謝; 経路とプロセス; 内分泌代謝; ホルモン生合成

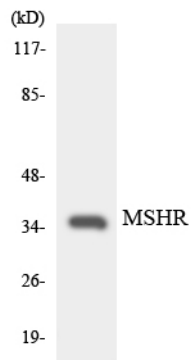
画像データ



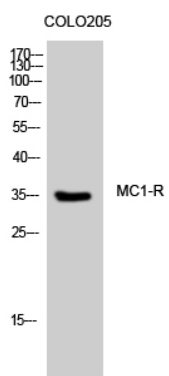
MSHR 抗体を用いた LOVO 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



COLO205 細胞ライセートの MSHR 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MSHR 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



MC1-R ポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析